

10

神の目には、
すべての人は、生まれながらに罪人

人間には、２種類の人しかいない。
罪人　と　悔い改めた罪人。

あなたはどちらですか？

11

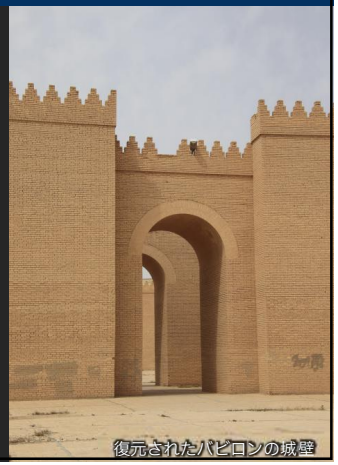
あなたは　罪人か？　悔い改めた罪人か？

❶裁かれたゼデキヤ王　52:1～11

❷エルサレムの最後　52:12～30

❷憐れみを受けたエホヤキン王　52:31～34

すべては主の約束の上に

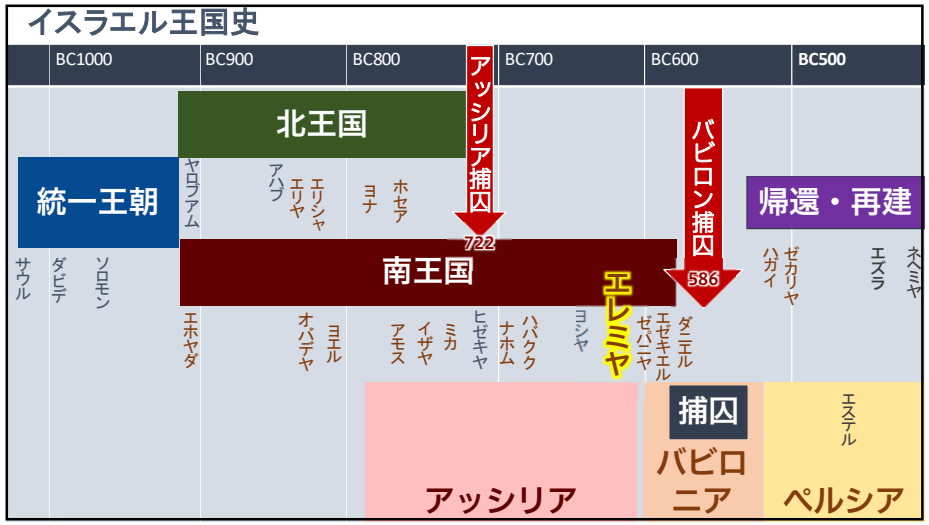


聖書引用　新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会　許諾番号4-1062-2

12



13



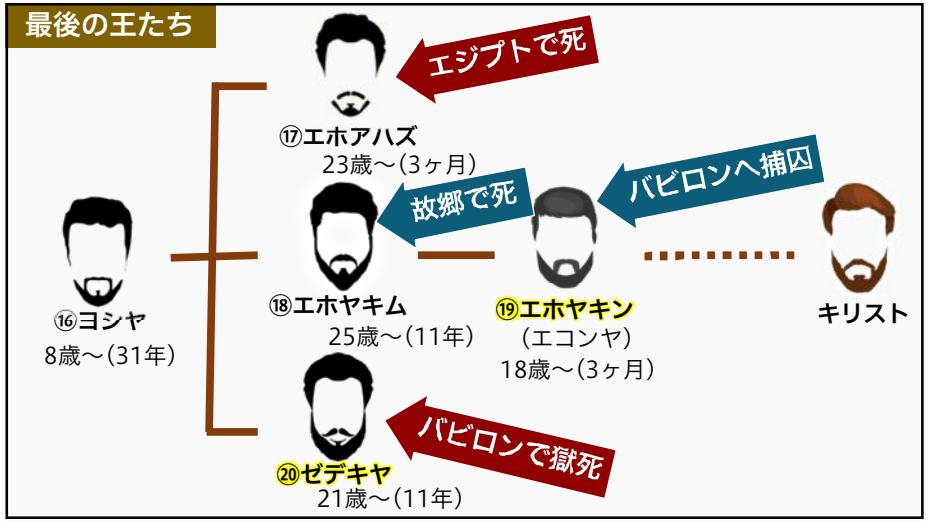
14

■イスラエルは、多くの預言者の警告も拒み、背きを重ねた。

■北王国は、BC722年、アッシリアよって滅亡。
南王国は、バビロニアによって滅ぼされた。
（バビロン捕囚・BC586）



15



16



17

❶ゼデキヤ　最後の王　52:1～2

ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。

彼は、すべてエホヤキム*がしたように、【主】の目に悪であることを行った。

＊先々代のエホヤキムは、兄（15歳上）
　先代のエホヤキンは、甥（3歳下）

■二回の捕囚後、ゼデキヤは傀儡の王に。



18

❶ゼデキヤ　反逆と包囲　52:3～4

実に、エルサレムとユダが主の前から投げ捨てられるに至ったのは、【主】の怒りによるものであった。その後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。

ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツァルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に塁を築いた。

■バビロン捕囚について、エレミヤ39章、
　II列王記25章、II歴代誌36章にも記載。



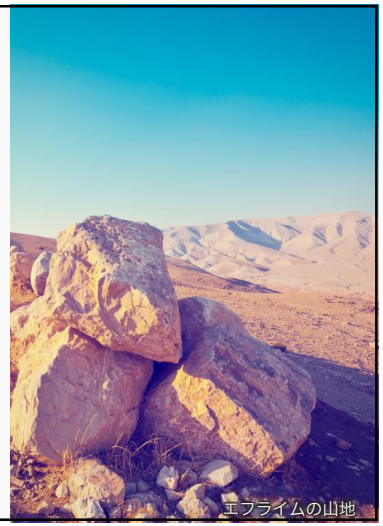
19

❶ゼデキヤ　兵糧攻め　52:5～6

こうして都はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていた。

第四の月の九日*、都の中で食糧難がひどくなり、民衆に食物がなくなった。

＊半年にわたる包囲



20

❶ゼデキヤ　王の捕縛　52:7～8

そのとき、都は破られ、戦士たちはみな逃げて、夜のうちに、王の園に近い二重の城壁の間にある、門の道から都を出た。カルデア人が都を包囲していたので、彼らはアラバへの道*を行った。

カルデアの軍勢は王の後を追い、エリコの草原でゼデキヤに追いついた。すると、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。

＊死海に下る道　➡エジプトへ逃亡？！



21

❶ゼデキヤ　宣告と虐殺　52:9～10

カルデアの軍勢は王を捕らえ、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。

バビロンの王は、ゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺し、ユダの首長たちもみなリブラで虐殺した。

＊北方のシリアにある古代からの都市
バビロニアが西方遠征の拠点としていた。



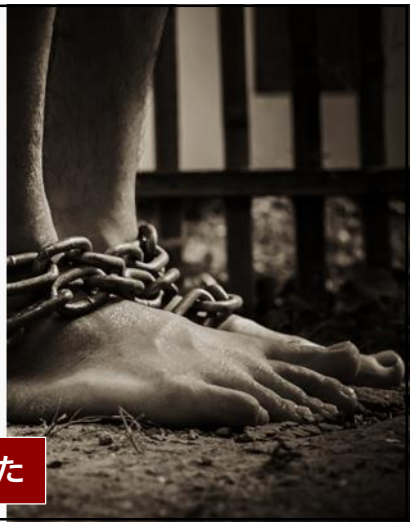
22

❶ゼデキヤ　投獄　52:11

さらに、ゼデキヤの目をつぶし、彼を青銅の足かせにつないだ。バビロンの王は、彼をバビロンへ連れて行き、彼を死ぬ日まで獄屋に入れておいた。

■ゼデキヤ王が最後に見たのは、
息子達が虐殺される光景。
…この終身刑は、死刑より無残

ゼデキヤは主に背き通して裁かれた



23



❷エルサレムの最期　エレミヤ書52章12～30節

バビロニアのジグラッド

24

❷都の最期　壊滅　52:12～14

第五の月の十日、バビロンの王ネブカドネツァル王の第十九年*のこと、バビロンの王の家来、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、【主】の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。

親衛隊の長と一緒にいたカルデアの全軍勢は、エルサレムを取り巻く城壁すべてを打ち壊した。

＊バビロンの暦で記録。
➡滅びたイスラエルの暦は存在しない



25

❷都の最期 **残された民** 52:15～16

親衛隊の長ネブザルアダンは、民の貧しい者たちの一部と、都に残されていた残りの民、バビロンの王に降伏した投降者たち、そのほか技術に秀でた人たちを捕らえ移した。

しかし、親衛隊の長ネブザルアダンは、その地の貧しい民の一部を残し、ぶどうを作る者と農夫*にした。

＊バビロン王に献上させたのだろう



26

❷都の最期 **略奪** 52:17～18

カルデア人は、【主】の宮の青銅の柱と、車輪付きの台と、【主】の宮にある青銅の「海」を砕いて、その青銅をみなバビロンへ運んだ。

また、灰壺、十能、芯取りばさみ、鉢、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。

■ソロモンが造らせた青銅の鋳造品。

➡金銀の器具の大半は以前に略奪



27

❶ **青銅の器具** 52:19～20

また親衛隊の長は、小鉢、火皿、鉢、灰壺、燭台、平皿、水差しなど、純金や純銀のものを奪った。

ソロモン王が【主】の宮のために作った二本の柱、一つの「海」、車輪付きの台の下にある十二の青銅の牛、これらすべての物の青銅の重さは、量りきれなかった。



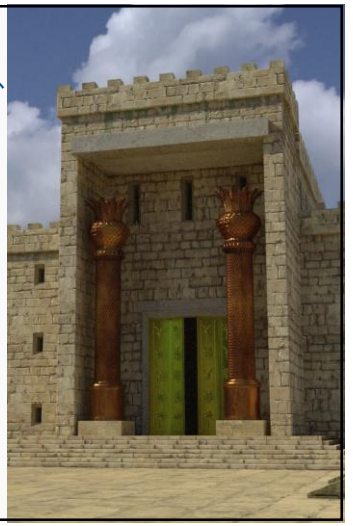
28

❷都の最期 **柱** 52:21～22

その柱は、一本の柱の高さが十八キュビト、その周囲は十二キュビト、その厚さは指四本分で、中は空洞になっていた。

その上の柱頭は青銅で、一つの柱頭の高さは五キュビトであった。柱頭の周りに格子細工とざくろがあって、すべて青銅であった。もう一本の柱も、そのざくろも、これと同様であった。

＊柱の高さ約8m、周囲約5m、柱頭約2m



29

❷都の最期 **最後の捕囚** 52:23～25

周りには九十六のざくろがあり、周りの格子細工の上には全部で百のざくろがあった。

親衛隊の長は、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、戦士たちの指揮官であった一人の宦官、都にいた王の七人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都の中にいた民衆六十人を、都から連れ去った。

■残っていた祭司、軍の長も連行された。



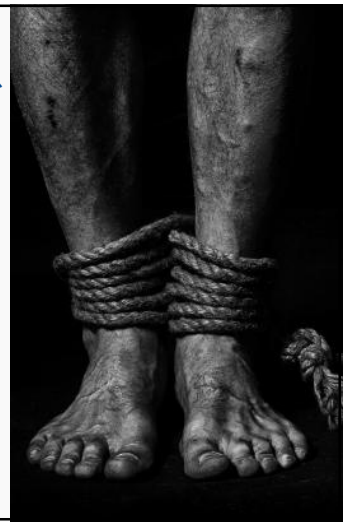
30

❷都の最期 **処刑** 52:26～27

親衛隊の長ネブザルアダンは彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のもとへ連れて行った。

バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らを打ち殺した*。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。

＊ゼデキヤに近しい者たちは処刑された。



31

❷都の最期 **捕囚の民** 52:28～30

ネブカドネツァルが捕らえ移した民の数は次のとおりである。第七年には、三千二十三人のユダヤ人。 ネブカドネツァルの第十八年には、エルサレムから八百三十二人。

ネブカドネツァルの第二十三年には、親衛隊の長ネブザルアダンが、七百四十五人のユダヤ人を捕らえ移し、その合計は四千六百人であった。

■三度の捕囚で約5千人が強制連行された。
…兵士は別か。8千人(Ⅱ列24:16)



32



33

❸エホヤキン　恩赦　エレミヤ52:31～32

ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目*の第十二の月の二十五日、バビロンの王エビル・メロダクは、即位した年のうちにユダの王エホヤキンを呼び戻して、獄屋から出し、優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位より*も、彼の位を高くした。

＊エホヤキン55歳。人生の2/3を獄で。

＊帝国の数多い属国の王たちよりも。



34

❸エホヤキン　主の憐れみ　52:33～34

彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。

彼の生活費は、死ぬ日までその一生の間、日々の分をいつもバビロンの王から支給されていた。

- Ⅱ列王記25:27～30にも同じ記録が。
- エホヤキンは第二次捕囚で無抵抗で降伏。
  主の裁きを甘んじて受け入れ、憐れみを。
  ➡獄中で悔い改めたのだろう



35



36

まとめ　二人の王の違い

王	行動	結果
ゼデキヤ	悪・偶像礼拝を行った。 傀儡の王なのに、 バビロンに反逆 **最後まで抵抗**	目の前で息子達を虐殺 目を潰され、獄死
エホヤキン	悪・偶像礼拝を行った。 バビロンに降伏 **獄中で悔い改めた**	37年目に恩赦　55歳で解放 バビロン王の憐れみを受けた

なぜ、悔い改めたと言える？

37

神殿奉献のソロモンの祈り　I 列王記8:46～48

「罪に陥らない人は一人もいません。ですから、彼らがあなたの前に罪ある者となったために、あなたが怒って彼らを敵に渡し、彼らが、遠くであれ近くであれ敵国に捕虜として捕らわれて行き、捕らわれて行った地で我に返り、その捕囚の地であなたに立ち返ってあわれみを乞い、**『私たちは罪ある者です。不義をなし、悪を行いました』**と言い、捕らわれて行った敵国で、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都、私が御名のために建てたこの宮に向かって、あなたに祈るなら、

38

神殿奉献のソロモンの祈り　I 列王記8:49～50

あなたの御座が据えられた場所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて、あなたの前に罪ある者となったあなたの民を**赦し**、あなたに背いた、彼らのすべての背きを**赦し**、彼らを捕らえて行った者たちの前で彼らを**あわれみ**、その者たちがあなたの民を**あわれむように**してください。」

➡**バビロン捕囚と、捕囚先の赦しの道は示されていた**

エホヤキンは悔い改めて赦された!!

39

モーセに啓示された捕囚　申命記30:1～3　土地の契約

「私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたの神、【主】があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたが我に返り、
あなたの神、【主】に立ち返り、私が今日あなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、いのちを尽くし、御声に聞き従うなら、
あなたの神、【主】はあなたを元どおりにし、あなたをあわれみ、あなたの神、【主】があなたを散らした先の、あらゆる民の中から、再びあなたを集められる。

40

モーセに啓示された捕囚　申命記30:4～6　土地の契約

「たとえ、あなたが天の果てに追いやられていても、あなたの神、【主】はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ戻される。
あなたの神、【主】はあなたの先祖が所有していた地にあなたを導き入れ、あなたはそれを所有する。主はあなたを幸せにし、先祖たちよりもその数を増やされる。
あなたの神、【主】は、あなたの心と、あなたの子孫の心に割礼を施し、あなたが心を尽くし、いのちを尽くして、あなたの神、【主】を愛し、そうしてあなたが生きるようにされる。

41

まとめ　生き続けていたアブラハム契約　申命記30:4～6

【悔い改めによるイスラエルの回復】

❶連れ戻される・所有する　…約束の土地の所有

❷その数を増やされる　…子孫の繁栄

❸心に割礼を施し、主を愛して生きる　…メシアが施行される「新しい契約」完全な罪の赦し。永遠のいのちへ。

捕囚後もイスラエルを守ったのは、アブラハム契約

42

まとめ　エホヤキンの受けた　はかりしれない恵みとは

■マタイ福音書1:10～12…16

ヒゼキヤがマナセを生み、マナセがアモンを生み、アモンがヨシヤを生み、バビロン捕囚のころ、ヨシヤが**エコンヤ**とその兄弟たちを生んだ。バビロン捕囚の後、**エコンヤ**がシェアルティエルを生み、シェアルティエルがゼルバベルを生み…

ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。**キリストと呼ばれるイエス**は、このマリアからお生まれになった。

■エコンヤは、王の名・エホヤキンでは呼ばれていないが…、

➡**ダビデの系譜を継ぎ、メシアに繋ぐ者として用いられた**

43

適用　罪の赦しの原則を心に刻もう

■**悔い改めて、主の約束に信頼したら、赦される。**

➡エホヤキンは、**アブラハム契約**に信頼して赦された

■**今の時代に、私たちが信頼し、従うべき神の約束とは？**

➡**新しい契約**・主イエスの**福音**を信じて立ち返ること

私の罪のため十字架で死なれ、葬られ、復活された
主イエス・キリストの福音を信じ、
主に信頼し続けていこう

44

適用　心に刻むべきは　悔い改めの大切さ

「もし私たちが**自分の罪を告白**するなら、
神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、
私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」
ヨハネの手紙第一1章9節

■信じて聖化の道を歩み始めても、罪を犯すのが私たち。

➡重要なのは、**罪の告白・悔い改め**

悔い改めは信仰の証し　主に信頼する者の特権

45

★　あなたは罪人か？　悔い改めた罪人か？　★

■厳正な裁き主をおそれよう。蒔いた種の刈り取りはある。
悔い改めのない者に赦しはない。信仰者も同様だ。

■しかし、悔い改めて主に信頼する者を、主は赦される。
はかりしれない、主の憐れみと愛をこそ味わい知ろう。

■罪を犯せば、必ず気づかされる。悔い改めに早い者であろう。
打ち砕かれるほど、この身に心に染み渡る神の恵みがある。

主の約束に基づく恵みを　味わい知らされて行こう。

46

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、
②墓に葬られ、
③三日目に復活されたこと、を信じます。
主は、怒るに遅く、憐れみ深い方、完全な義と愛に満ちた方です。
私たちが罪を犯せば、必ず御霊が気づかせてくださいます。
私たちは、罪を告白し、悔い改めます。私たちを赦してください。
救われた喜びと感謝をもって、福音宣教に遣わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」

47